

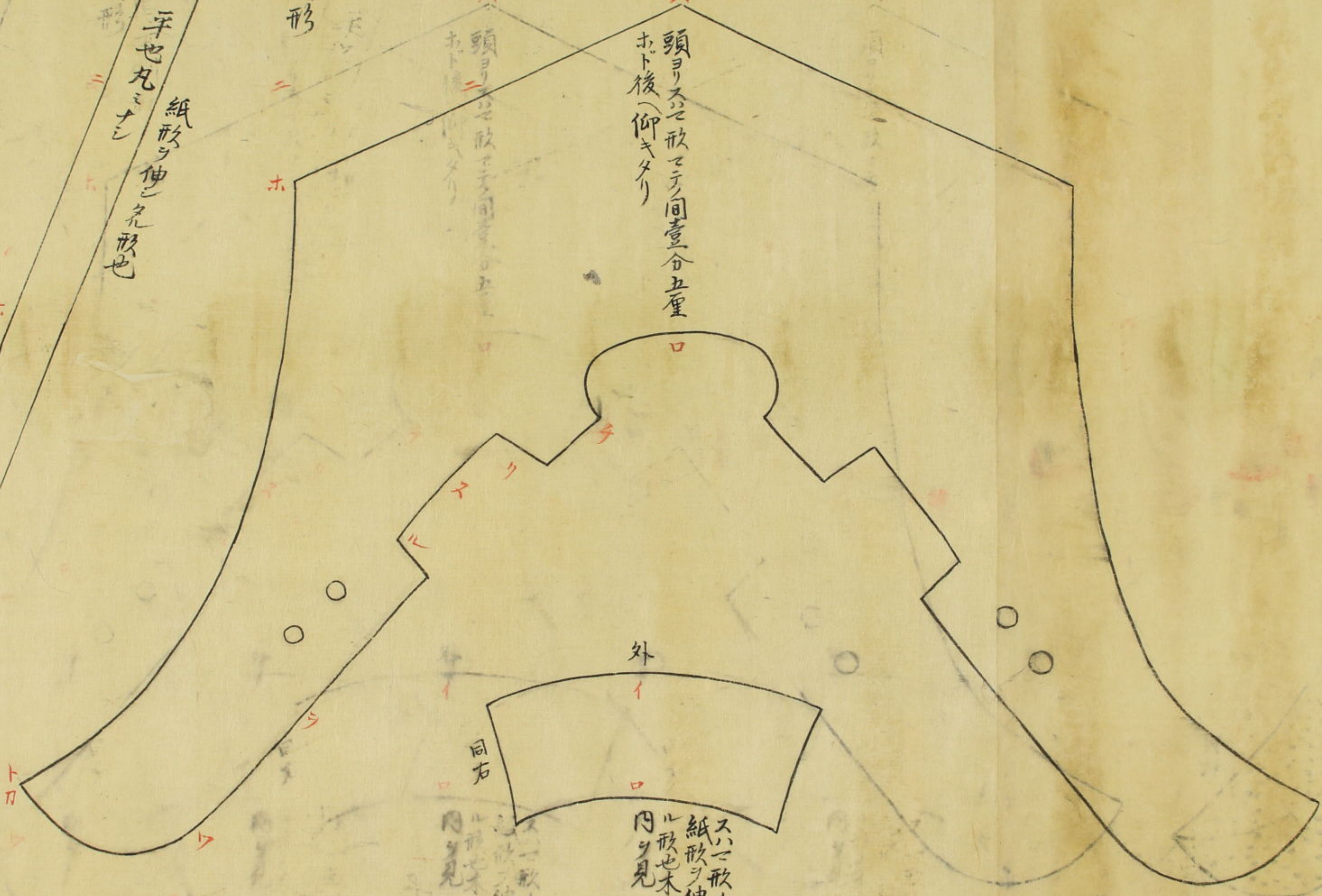
シキ
外ラ注メテシキヲ立ルニアラス
平ミシテシキアリカノ金ノ如シ



水晶ト漆ト平ナリ

前輪裏

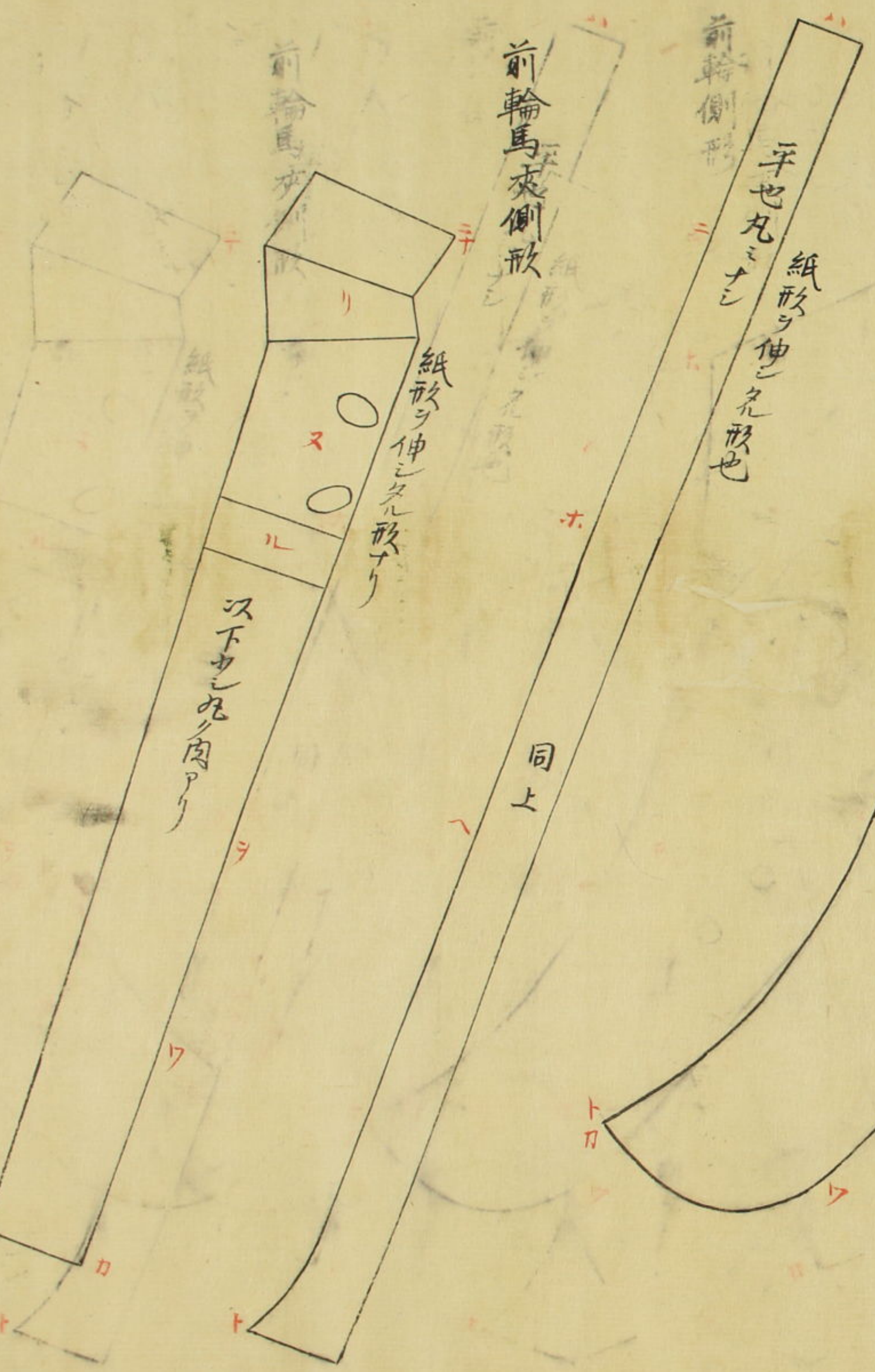
頭ヨリス之形ニテ同壹分五厘
ホト後(仰キタリ)



スハニ取ノ内ノ
紙取ヲ伸シタ
ル形也木ノ厚ヲ
内ヲ見(シ)

前輪側形

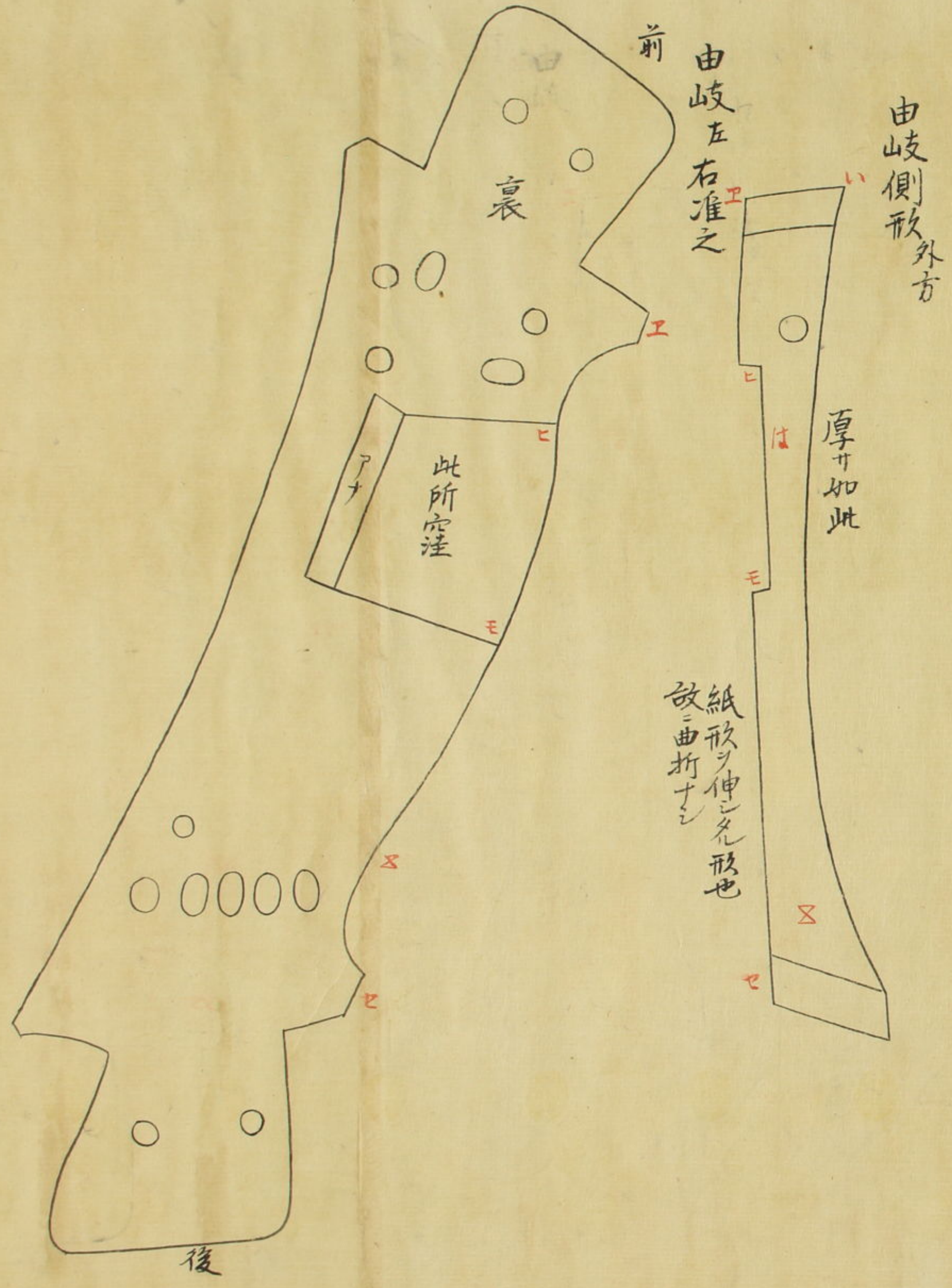
紙取ヲ伸シタ
平也丸ミナシ



前輪馬衣側形

同上

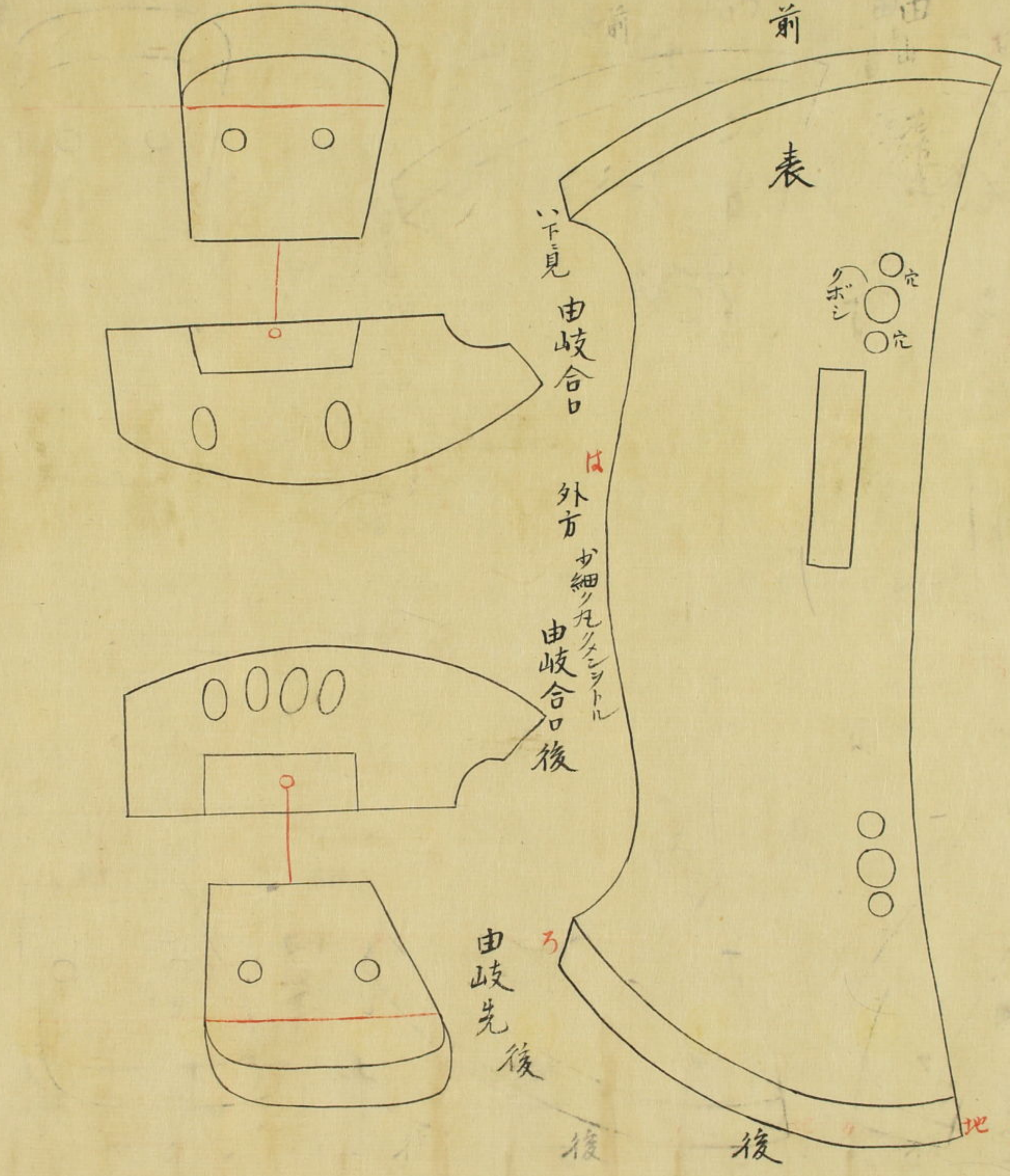
以下サレ角アリ



由岐側取
外方

厚サ如此

紙形ヲ伸シ名形也
故ニ曲折ナシ



由岐左右准之

紙形ヲ伸シ名形也

後輪側取馬夾

紙形ヲ伸シ名形也

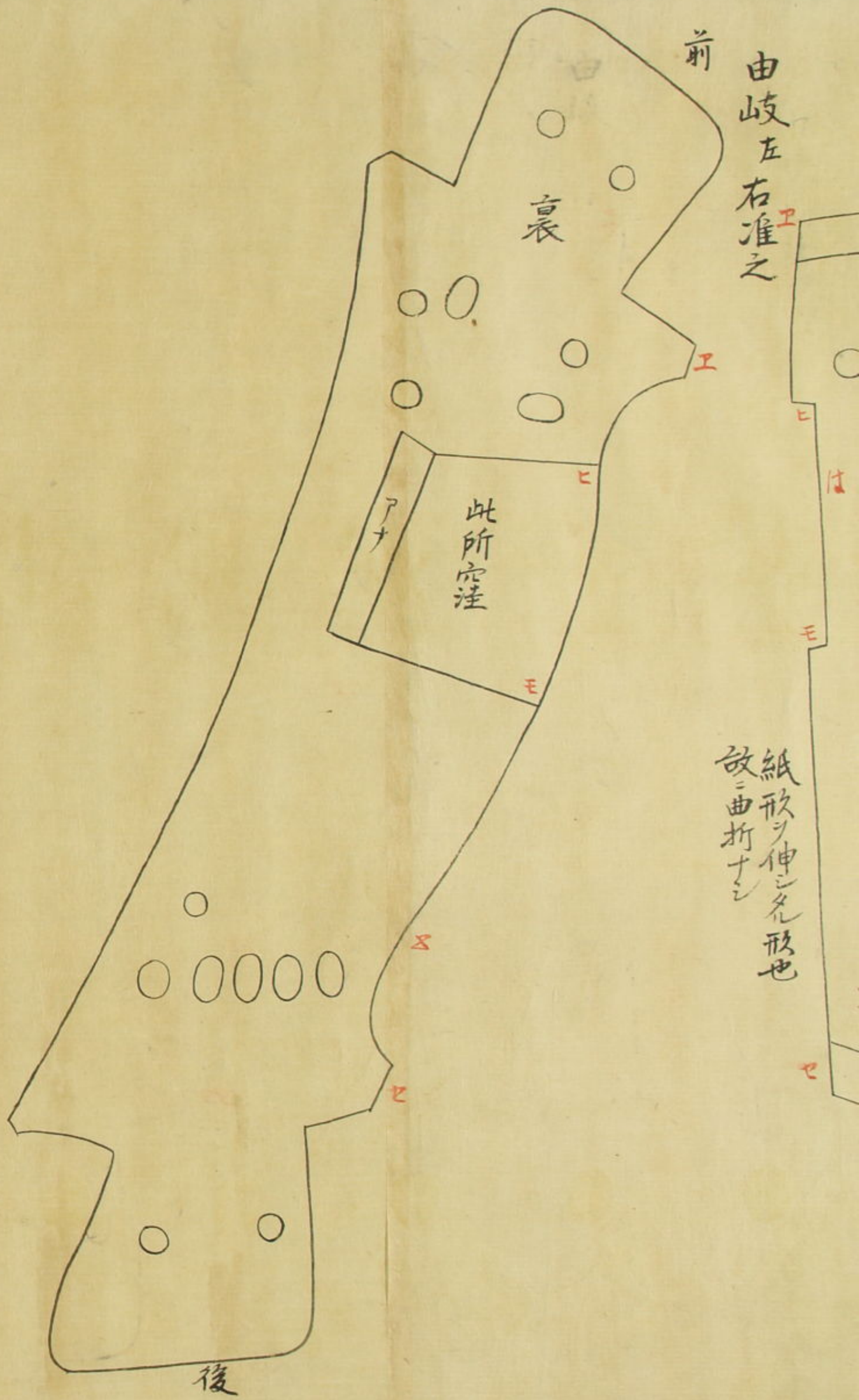
此色
平ニテ
肉ナシ

此辺ヨリ
以下サシ
肉アリ

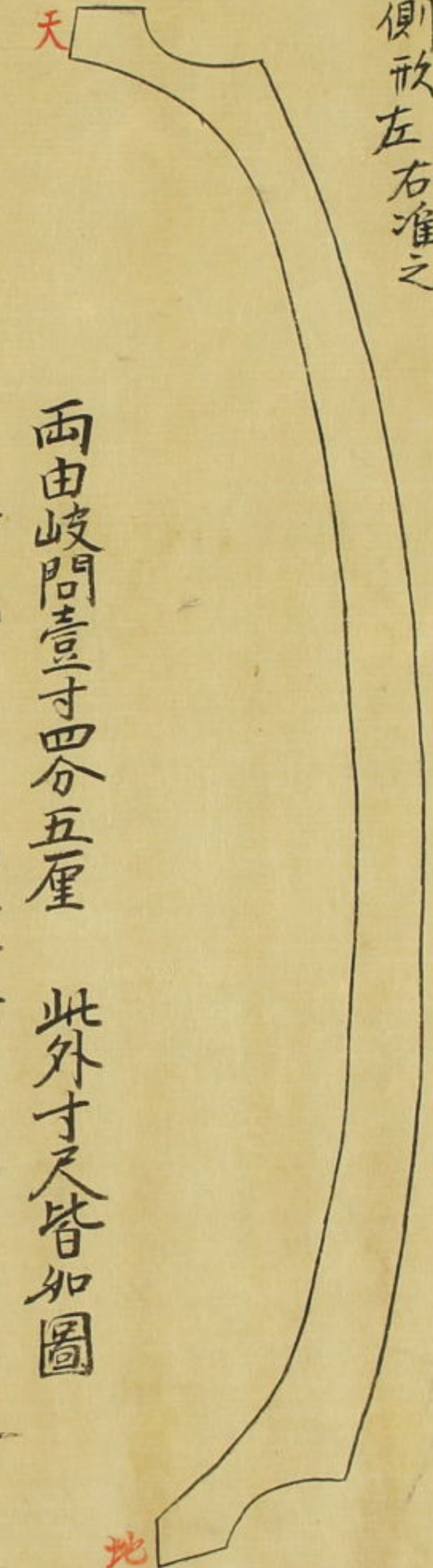
計
六分
表
出

前
由岐左右准之

紙形ヲ伸ニ名形也
故ニ曲折ナシ



由岐側取左^{内方}右准之



西由岐間壹寸四分五厘 此外寸尺皆如圖
水晶地云飾名也此鞆橋名別有ニ其名未知

天明二年壬寅四月廿日

伊勢平藏貞丈圖

文化十年十一月二十九日寫畢 八幡与一百里



73
3645
350



73
3645
350

水晶地鞍馬



い母一平源忠恭朝臣 酒井雅 樂頭に由見えに水晶地乃鞍馬を名せしき抄れぬ
 屋むまも家伝名人の家 秘伝 抄りし實治年中に製されし物なりや
 是は成を信りし信樂國懷自城に模し志わらば本乃水晶を圓に玉を
 てより金たり 式我好くして牡丹花より一也と詔しき後源邦孝新
 藤原長家 堀河天皇の御代に模しぬて平の具せりき此山也とて
 なる所を是にぬりし世に玉をいさすてこそ玉ぬ近比に繪出れん
 といきし源邦賢 邦孝養子實の 少少い信りて紙をひて鞍馬ありて其あを
 はけて画きぬとていし此忠恭朝臣の鞍のまほをすれす本の文圓きありて
 あきしとてより今に國小圓きものを西き川玉の玉をとりしとて
 なるがたより西きぬれぬ本物の物なりきとすん一さきとて
 古の御代にすいぬりし母かた相乃文をの事ありあからしむる定極め
 たりとすんいかりしとてゆめありきかゝるは後の物なりとていし
 見ゆすん一式人の説に鞍馬を水晶地といふといふも水晶文といふ
 もあはしきといふも水晶地乃地の織物ありといふも水晶地乃水晶地
 といふも乃面を拵て地といふ地の中より文をいしとていし言はば
 草とあはしむる地の草といふや一は地小ぬるの面を拵て云は地の中より藍



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or inventory. The script is dense and fills most of the page.

Small vertical text or signature on the left side of the page, possibly indicating the author or a specific section.

350

73
3645
350